

L P ガス料金の透明化と適正化を目指して



～「L P ガス問題を考える会」シンポジウム開催～

北海道消費者協会と北海道生協連が構成団体となっている「L P ガス問題を考える会」は、3月26日にL P ガス料金の透明化や契約トラブル解決を目的としたオンラインシンポジウム「L P ガス問題シンポジウム～三部料金制で何が変わるのか～」を開催しました。全国から135名が視聴、報道9社が取材に訪れるなど関心は高く、参加者の82.5%が「大変良かった」「まあよかった」と回答、高い評価をいただきました。また自由記載からは、「L P ガス問題の現状を知った」「液石法改正の内容が分かった」「行政の対応を知った」等の感想がありました。

シンポジウム概要

第一部：専門家・行政報告

- ◆橋川 武郎 様（国際大学学長）：「L P ガス取引適正化の到達点と実効性確保に向けて」と題し今後の取り組み方向性を示されました。
- ◆日置 純子 様（資源エネルギー庁資源・燃料部燃料流通政策室長）：「L P ガス商慣行是正に向けた制度改正の狙い」について解説いただきました。
- ◆松山 正一 様（弁護士）：「法的視点からみた、消費者被害に遭わないためのL P ガス契約の注意事項」を報告いただきました。

第二部：現場からの特別報告

- ◆池田 貴 様（札幌市消防局 係長）：地方行政の先端を行く報告として事業者「検査」で判ったことを札幌市の広報を通じて、L P ガス事業者と消費者にお知らせしている活動。
- ◆齋藤 真廣 様（北海道大学生生活協同組合 専務理事）：L P ガス問題取組の全国的広がりのきっかけとなった、北海道大学周辺の賃貸集合住宅のL P ガス料金実態調査結果依然として二倍を超える料金格差の存在報告。
- ◆矢島 収（L P ガス問題を考える会事務局）：消費者として3部料金制度に伴う基本料金の内訳や設備費の取り扱いと家賃との関係について知りたいこと訴えたいことの鋭い発言がありました。



成果と今後の課題

専門家、行政、消費者が一堂に会し直接意見交換できたことが大きな成果です。今後の課題として、以下の点が共有されました。

- 問題のある事業者の特定と改善促進。
- 経済産業省だけでなく、国土交通省（宅建業法関連）や警察（特商法違反関連）とも連携強化。
- 悪質なブローカー活動の規制強化。

皆様へ

北海道生協連は、今後も関係団体と連携し、L P ガス契約における消費者被害根絶と業界の商慣行是正に取り組めます。この問題について、会員生協及び組合員の皆様の引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

大学キャンパスに 昨年以上の笑顔と元気があふれました！

大学生協同組合連合会 北海道ブロック
事務局次長 古屋 麻実

全国大学生協連合会が毎年行っている「保護者に聞く新入生調査」によると、北海道内の大学に進学された保護者の2人に1人が、大学生活への期待を抱えると同時に友達作りや大学の講義など不安を感じています。また新入生の間では春になるとSNS上で「#春から〇〇大」という投稿が増え、入学前から人とのつながりを求めていることがうかがえます。各大学生協に設置されている学生委員会のメンバーはそんな期待や不安に答えるため、オープンキャンパス時期から受験生や保護者と接点を持ち、SNSを通じて応える活動を続けてきました。

入学を決めた新入生や保護者に先輩学生として自分たちの経験を伝えながら、生協加入や共済加入・ミールプラン・ノートPCや学び商品の提案を行う「入学準備説明会」に取り組む学生委員が昨年以上に増えました。先輩学生として新入生に送ってもらいたい大学生活を出し合い、提案スライドの作成や提案の練習を重ね本番を迎えました。

新入生歓迎会の準備でも多くの議論を重ね、「新入生同士の交流」「新入生と先輩の繋がり作り」「キャンパスのことをより深く知ることのできるレクリエーション」などを立案しました。

運営当日はたくさんの新入生を迎えることができました。半数以上の新入生が参加する大学もあり、新入生にとっても友達づくりの大切な場として認識されていることを実感しました。開始直後はよそよそしかった新入生同



北海道教育大生協 たくさんの笑顔があふれました

士も企画が進むにつれ、お互いに声をかけあい楽しく話をする姿が多くみられました。新入生だけではなく運営を行った先輩学生自身も楽しみ、友達づくりの機会を先輩学生として作ることができた喜びや大学生協の学生委員会として取り組む価値を感じることができました。そんな先輩の姿見て、「自分が先輩にしてもらったことを今度は自分が後輩にやってあげたい」という温かい思いをもって学生委員会に入り、活動を始める新入生も多くいます。

学生委員会の活動はこれだけにとどまらず、新入生が最初に苦労する履修登録に関する相談会や部活・サークル案内企画・パソコン講習会なども盛んに行われ、新入生の大学生活を様々な角度からサポートする取組みが行われました。

今年度も大学キャンパスは多くの笑顔と元気にあふれています。この笑顔と元気をさらに増やし有意義な大学生活を過ごしていただくために大学生協職員として何ができるかを日々考え、学生委員会と連携しながら実践していきます！

生活協同組合コープさっぽろ

『被爆ピアノの平和の音色』

3月30日 高校生平和大使被爆ピアノコンサート IN ルーシー

1945年 広島に原爆が投下されました。日常に響き渡っていたピアノの音色も原爆投下により聞こえなくなり、鍵盤を弾くことも、演奏もできなくなりました。こうした悲惨な現状のなかでも奇跡に残ったピアノは調律師矢川光則師の修復により、当時の音色を「平和の音色」に変え、全国各地へ届けられるようになりました。

今年3月、北海道高校生平和大使の働きかけによって、札幌市内の6箇所、新千歳空港で被爆ピアノコンサートが開催される運びとなり、様々な年代や国籍の方に素晴らしい音色とともに、平和の想いも一緒に届けられました。

同じ時間と空間を共有し、演奏や朗読等を聞いた方々には、高校生平和大使の想いでもある次世代への平和を継承するという重要さも感じてもらっていると嬉しです。

ひとり、ひとり平和の感じ方、想いが違って当然です。日々の暮らしの中での平和、家族や友人の平和、口にすることが少ない言葉ですが、それが心の片隅にあるだけで、ごはんを食べられること、住むところがあること、当たり

前に生活していることに感謝の想いがわいてきます。

今後、さまざまな平和活動を通して、「私たちに平和を」を、平和でいられることを自分事ととらえて行動し、平和の輪を広めていきたいと思います。

「微力だけど無力じゃない」という高校生平和大使の想いを応援していきます。

